

- ▶ 本県の森林産業を資源循環型産業に変革させるためには、地域の核となる人材づくりが求められている。また、従来の固定観念にとらわれずに、森林産業が抱える課題の本質を捉えて解決に取り組むため、産学官の異分野人材によるチームづくりを進める必要がある
- ▶ そのため、立場や視点の異なる産学官の関係者による森林産業の抱える課題の本質を捉え直すプログラムを実施し、イノベーション人材創出を推進した。

□ 事業内容

1 森林産業イノベーション人材創出モデル事業

- (1) 地域プレイヤーと大学生等による地域の森林産業魅力の深掘り・発信
(現地訪問・ワークショップの開催、冊子等による学生目線のアウトプットの提示等)
- (2) 地域プレイヤーと異業種参画者による事業プランの検討・試作展示会の開催

【事業費】 9,985千円（うち譲与税4,085千円）

【実績】

- (1) 大学生による本県森林産業の魅力を伝える内容の冊子製作
- (2) 山のダイゴミプロジェクト、山のダイゴミ展の開催
 - ・地域人材とデザイナーによる新たな価値創造に向けた取組



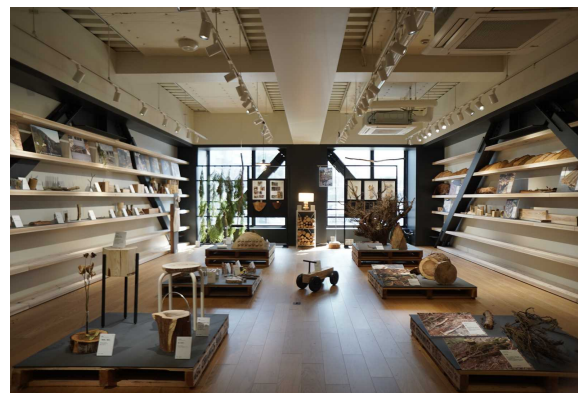
大学生による冊子製作



地域プレイヤーとデザイナーによる事業プランの検討状況

□ 工夫・留意した点

- ・従来、森林産業はサプライチェーンを一気通貫した関わりが、少ないが、イノベーションを推進するには産業全体のサプライチェーンを意識した取組を各段階で行う必要があるため、造林・素材・製材・建設のそれぞれの業界に関連する企業から参加メンバーを募集した。
- ・消費圏の大学生やデザイナー等も参画し、産業外からの視点を獲得し、地域や企業課題を捉え直しができる事業内容とした。



山のダイゴミ展の開催（デザイナーとの協働による林地残材に着目した取組）

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：184,332千円	②私有林人工林面積（※1）：176,375ha
③人口（※2）：1,069,576人	④林業就業者数（※2）：3,587人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より